

913.5
ゼ
1

人間一生  
獨案内

善惡道中記

全

一筆庵戲作  
侯齋英泉画



# 善惡道中記

人間生獨案因

頂恩堂敷

## 善惡道中記序

振古の聖賢、世を友善、後生迄を憐れむ。善  
 悪邪正の道を説き、いふは世徳と教め、徳  
 慎知を守る者、徳行を樂み、貧富の際、感  
 しく古凶を天不儘とせ、分を量る、足ざる事  
 是を如命の達者、云衆人多く、是を悟り、  
 人奸富の栄、誇り、善人多く、貧困窮、徳を  
 失ふ者を見て、不幸と不幸の地を極み、天命の





理を通曉さば、道不迷ふを案内の道、教諭不便と云ふ。書籍八路の標あり、墨翟と云ふ人の岐道を見、悲しむ道、迷入事を思ふ。十善街道三悪道、右欽左欽、彼方此方、問答の時、必迷ふ惑ふ、道不闇き故あり。克本善の道を尋て、巡り遠しといふ、名聞利慾の捷徑、不入、則行路難、山もあは、川もあは、人生の半腹不在と云、抑道の善悪も

知らば、其理を以て押と云ふ、公道人情、兩をうらうら全き、夏ハ為事、冬ハ人情、全け、公道を欽、公道全れば、人情を欽、各道必達する所と情不通、所不儘し、其性的と天命のを、智者仁人の遍て、自其道必適く、偏性を知者、盗跖が百年の壽ありとも、短しと、顔子が三十二年の夫も長しと云ん、飲鶴の千歳ハ猶短く、蟪蛄の一時の期長しと言ん、只足夏を知り、時ハ貧し、冬ハ富しが如く、足



事を知らざる時を富と心をも算まざり此両  
岐を悟らざるを浮世の旅に社悩と歩行ある如  
徑を讀文選不行路の詩に人生天地の間百年  
孰能要せん頼こころを敵火の如く長き浮世に  
短命に社も先陰選も月日仇も遇を惜氣  
も如く暮を遺感不わび人問の一生齋  
たる長竿の如く撐底の澤庵大根のおと後  
前をたると正味僅五十年の内外を出

喜怒哀樂可<sup>レ</sup>空しく費は月日を業(笑)  
七<sup>レ</sup>暮を月と稀なる星を思ふ一時の懈怠を  
そ<sup>レ</sup>怨む空しく嬰童克愛ふ用心し<sup>レ</sup>聖賢道  
不<sup>レ</sup>社方の本海道可<sup>レ</sup>赴き教を授けし  
者<sup>レ</sup>必<sup>レ</sup>良民とある<sup>レ</sup>寧<sup>レ</sup>驛路の道伴  
を<sup>レ</sup>撰ん<sup>レ</sup>獨<sup>レ</sup>素肉<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>勸<sup>レ</sup>善懲<sup>レ</sup>惡の<sup>レ</sup>端  
よ<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>飲<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>善<sup>レ</sup>惡<sup>レ</sup>道<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>記<sup>レ</sup>

題<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>奉<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>事



天保十四年歲在癸卯  
秋閏月稿成同十五年  
新春發兌

江戸祖川之市隱

一筆茶主人題



原本善惡道中記の飛雄事の著述を大いに行き一三三寶曆六年丙子の春  
の板の絵品と小冊と合早を考へて發市を其後天明寛政の頃に至り飛栗山人  
の板發賣の初名あり大通務案内と題して飛雄事の作意を假して絵品と冊子と  
合見せしむる戲作ありまゝに東京傳戲作中へ怪道務案内といふも其本  
の菓子小基事一もの之種破好光世の妙案と云へばこのも星霜うつらうつら  
の間に生れし善惡道中記の發賣の事なり

人間生 善惡道中記

一筆茶戲作

發端

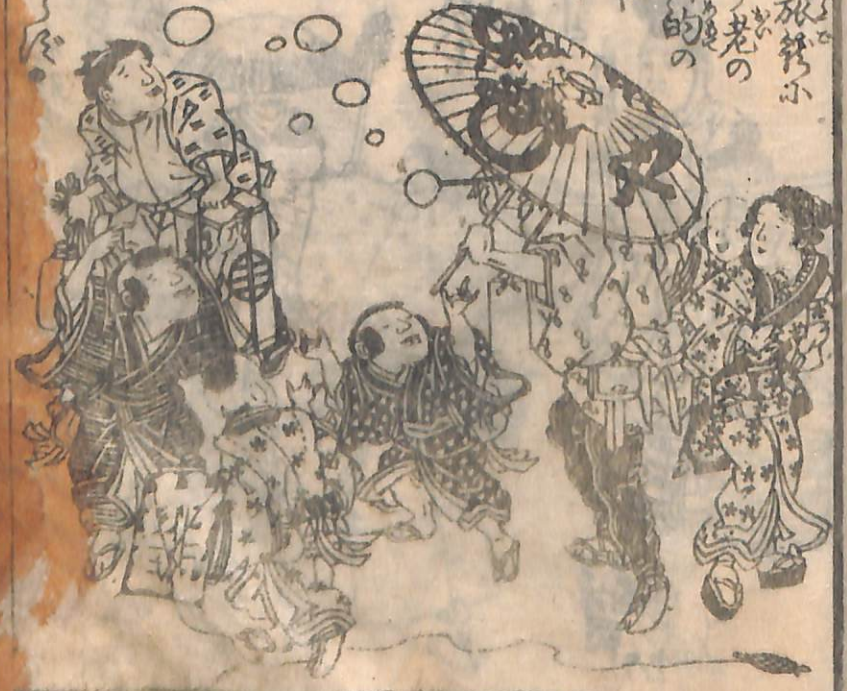
夏小拙き秃筆を採て旅の耻と俱ふ書捨ふべし人間一生浮世の旅日  
紀四季の國境小十二月の宿次あり初春の門松一里塚の誓一期の  
榮枯得失浮沈の如く人生僅五十里の驛路と下場の控六  
空れとも四十周五重の知命老の坂道小登り下りの難所一係りくま  
束縛ある七十の峠を越へて定宿の泊りも近く光陰の擲行駒の  
年馬輕尻歩行の審りも早老脚古郷の途世活覺の後生未  
事と終つとも命を惜み六日限の便り之を便り  
靴をくまぬ八十の覺漫で行ぬ老駝の浮世小捨れ非と見  
善念ありても是る事をあきらむる指を屈く善  
長き月日の早くも是れ世を停まるとしむるも明日の今日の日



ところの川の水は  
 流し通すのよき衣を捨た  
 夫如きは光陰小園守も  
 ろたれは形をあらわゆる  
 事のは馬を小ののり  
 場中も契を身後上も老の道  
 中仕ゆふを伴を伴多き如く  
 小油断あまをたれ道  
 回を場小を雷の旅行  
 運き小似れをも雲助を  
 早くごろ財先籠を  
 るむ此世を他生の橋  
 道つれ世情はれ小報  
 の木は海の小白鬼の苦勞



川苗小路用をそとて一布子を旅  
 老の  
 宿限まを風兩霜雪を覆て往の  
 遠の近きも  
 不幸運を天小依して福  
 の世國旅行老只世の旅の適  
 身の上の國者助のて主  
 喰く  
 も胸の情  
 後了川裁小幼吾燃  
 偷一二世因果を  
 面の理を説く只人生一  
 小女御道一教の捷徑  
 路不傳よ二世









五兩の定りお湯はあれども  
 常小儀小入く儲をめぐり  
 されぬやう小俵の下非後  
 密更不七更或分の首代は堪  
 の半減を坊へ借へて罪を  
 託る定とあり浮世を三分存し  
 安泰小なる者何れが春宵一刻  
 千金の便と高なる雅人あり文  
 字小も千金の並成お世へ世と  
 常小油割と堪忍とを守り安小  
 しく主る所を替へて常かろく人  
 細をせめて子孫の栄えをせりて  
 るるを信とほふ義をせりて  
 るるを信とほふ義をせりて



不他あつるを信と商人  
 合まのりを主へ撥る記子を  
 信とるの荷を賣るを主への腹  
 本教を打つるを信と牛八耕地の助  
 るるを主りて黒闇を  
 下を信大いして守るを主りて食分  
 下を信猫の刺を主りて軍集  
 するを主りて信とるを主りて初境  
 るるを主りて信とるを主りて初境  
 たりて信とるを主りて初境  
 敬といふを主りて初境  
 世の中の人各五常の道を守るを主  
 かりて其物を信とる聖人の教あり  
 ありの道中祀の大意あり













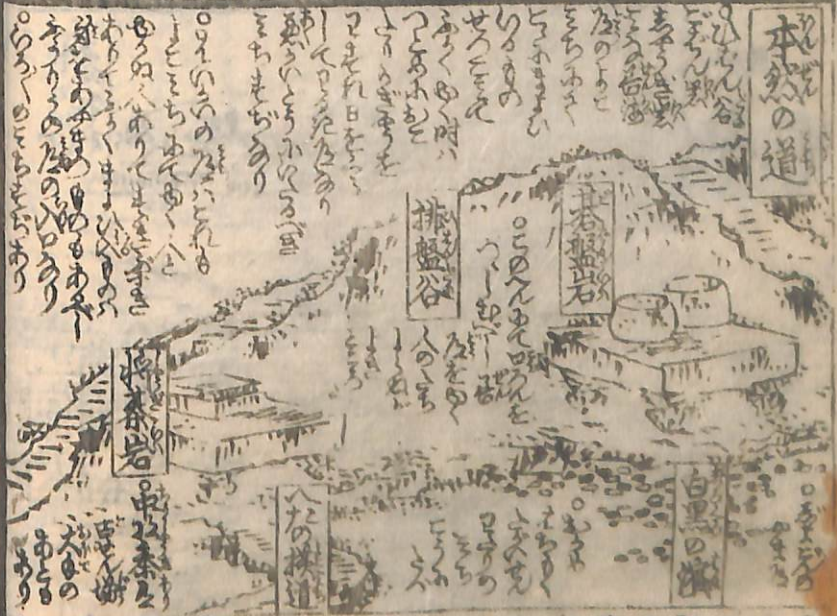








本然の道



Handwritten Japanese text in vertical columns, providing commentary or descriptions for the landscape. The text includes names of locations and philosophical reflections.



Handwritten Japanese text in vertical columns, providing commentary or descriptions for the landscape. The text includes names of locations and philosophical reflections.



Handwritten Japanese text in vertical columns, providing commentary or descriptions for the building. The text includes names of locations and philosophical reflections.



Handwritten Japanese text in vertical columns, providing commentary or descriptions for the landscape. The text includes names of locations and philosophical reflections.



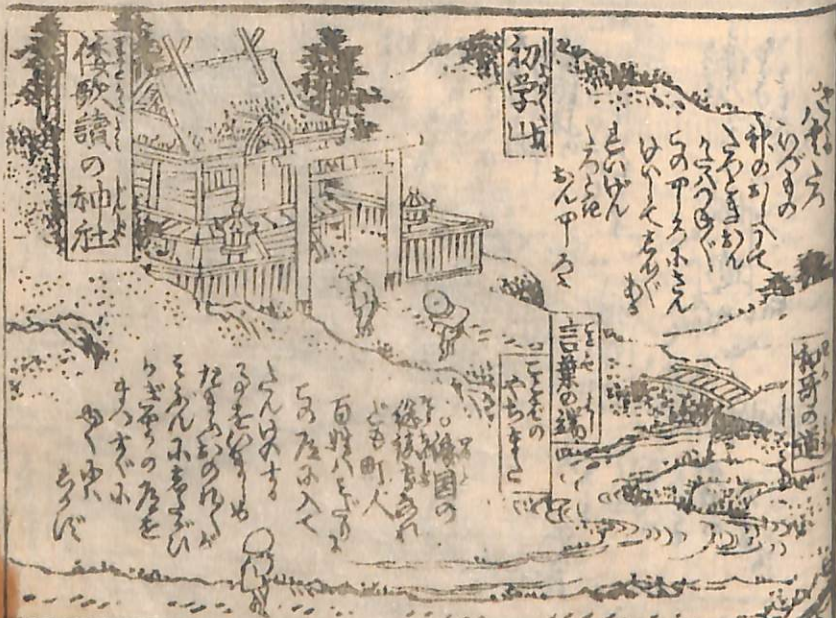
瀧のつらき  
 香林連休花  
 流民流す心も  
 るるこゝろあ  
 りあつてあ  
 岸分るる心  
 人ハトと及  
 りのつらき  
 上アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち  
 中アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち



多摩山  
 五ん秋石

風雅の端

風のつらき  
 香林連休花  
 流民流す心も  
 るるこゝろあ  
 りあつてあ  
 岸分るる心  
 人ハトと及  
 りのつらき  
 上アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち  
 中アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち



倭歌讀の神社

初学山

林のつらき  
 香林連休花  
 流民流す心も  
 るるこゝろあ  
 りあつてあ  
 岸分るる心  
 人ハトと及  
 りのつらき  
 上アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち  
 中アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち

言葉の端



出抄

出抄

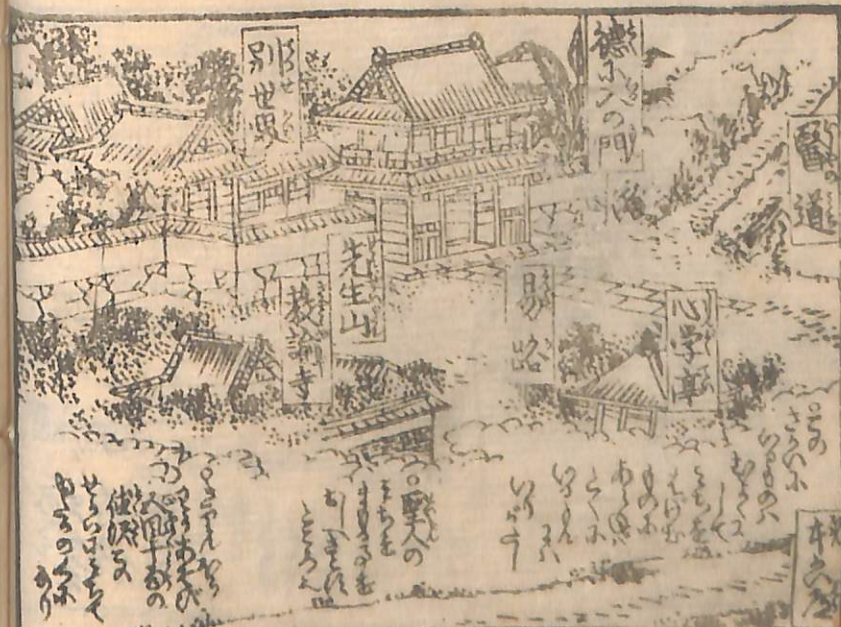
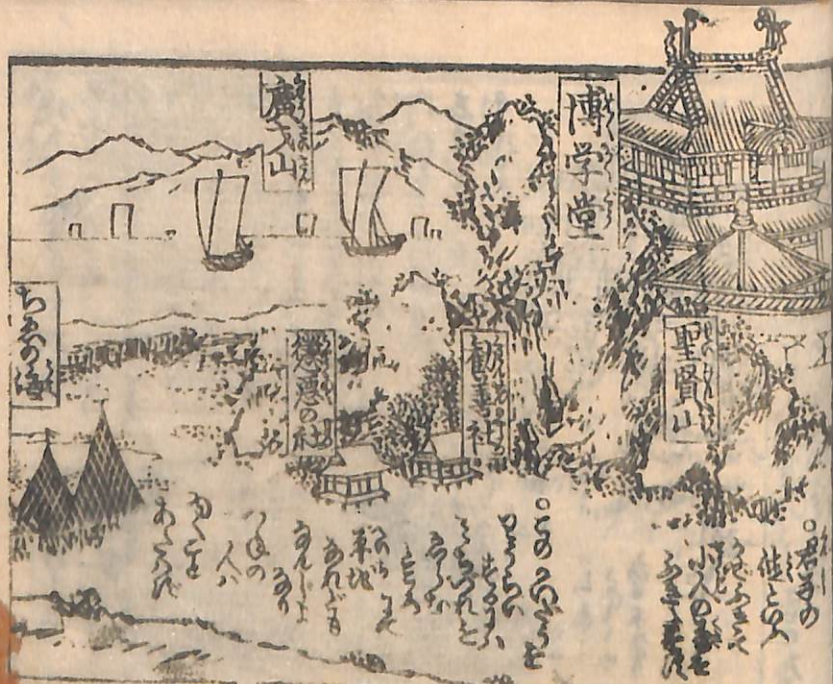
出抄

風のつらき  
 香林連休花  
 流民流す心も  
 るるこゝろあ  
 りあつてあ  
 岸分るる心  
 人ハトと及  
 りのつらき  
 上アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち  
 中アツてあ  
 衆人小あよ  
 計理をもち































あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ

新地

あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ



神



あんな  
うらやま  
こころ

あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ

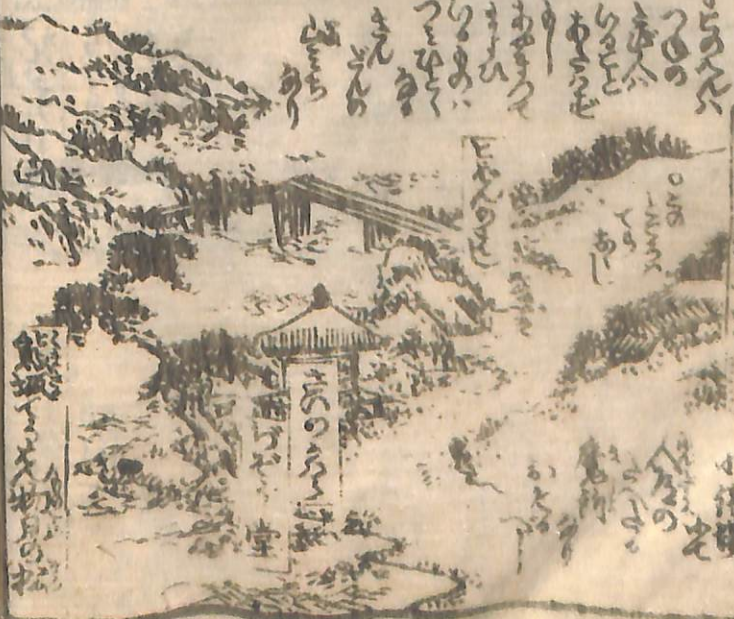
あづき



相場山

あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ

あんな



あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ

あんな

あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ  
あんな  
うらやま  
こころ















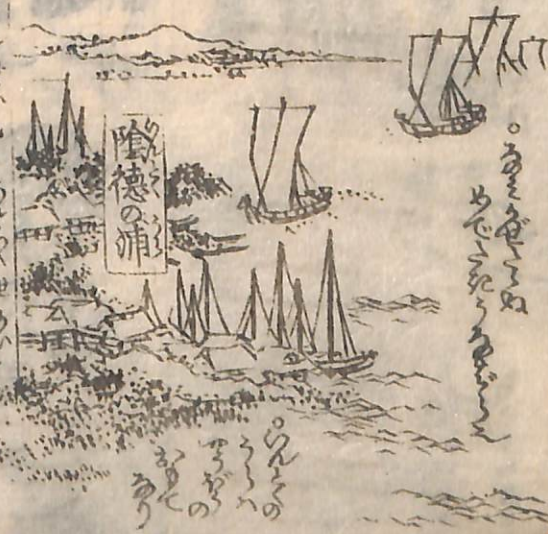








。さきさきとぬ  
めでたきとらるる



陰徳の浦

脩身齊家の安樂世界

この世の小治りこそ其の長久をそとより保衛せし  
ことをつとむる人々の徳業ありてのみなるを  
いふれば徳業はふまへ人の心もちをあらふる  
あまみちありてあんがくおとするをいふ  
とのまはまへとおもひあきらむるよりよきま  
づかぬ徳業の徳業ありて

天の道

。功あり名とげんが  
まろくへんのをと  
。あつてはあつて  
。あつてはあつて  
。あつてはあつて

極楽門

知命の樹

養老の宮

和合の樹



。この山のあつて  
つめれ人ありひそく  
まへんけんまんのまを  
あつてはあつて

柳の道



因果應報の天罰界

。うんハ天ありわざのちたふれはれども  
。あつてはあつて  
。あつてはあつて  
。あつてはあつて

悪徳の華

病人堂



左の屋と云ふんけん堂

。あつてはあつて  
。あつてはあつて  
。あつてはあつて















人間一生 一筆筆主 戲作  
善惡道中記 全

善惡道中記 第二編  
迷所圖會 全

善惡道中記 第三編  
迷所一覽 全  
一勇齋國芳画

同 四編 五編

前此齋 卍老人筆

出翁 善取畫 全一冊

早 割 十露盤 拾古鑑 一冊

世尊の人生の會編... 善惡道中記... 凡そ世尊の教訓... 折本... 折本... 折本...

折本... 折本... 折本... 折本... 折本...

二編... 奇物... 奇物... 奇物... 奇物...

世尊の草本... 世尊の草本... 世尊の草本... 世尊の草本...

老先生... 老先生... 老先生... 老先生...

折本... 折本... 折本... 折本... 折本...



